

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk) , Soma YOKOI



Monthly Theme

現代の遊動民に送る LGSパネルでつくる 竪穴式住居の未来性

LGSパネルを相互にもたれあわせて構成する竪穴式住居。
定住しながらアクティブに動き回る、
現代の遊動民にふさわしい住処です。

自然に溶け込む三角屋根の竪穴式住居。壁がほとんどない形状をすることで、強さとしなやかさを両立したため、地震に際しても潰れる心配はご無用。屋根のガルバリウムの下には高性能のフェノール系断熱材を使用します。これが竪穴式住居の茅葺断熱に代わるものです。

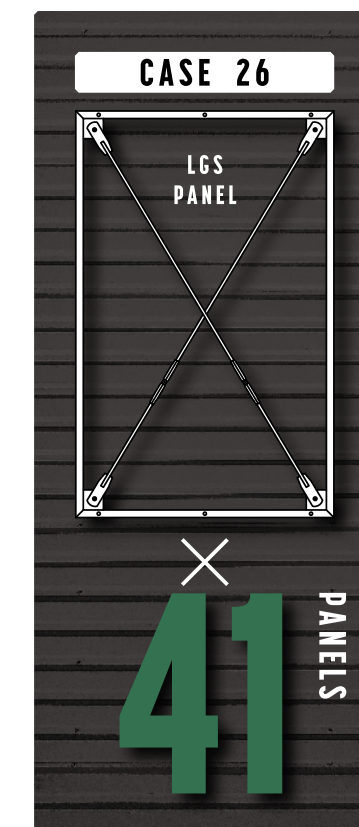
Exterior



Interior



デイトナが提案する
新しい建築のカタチ



What's DAYTONA HOUSE ?

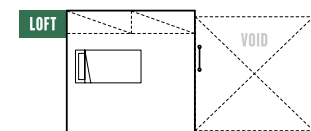
デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分りやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

www.daytona-house.com

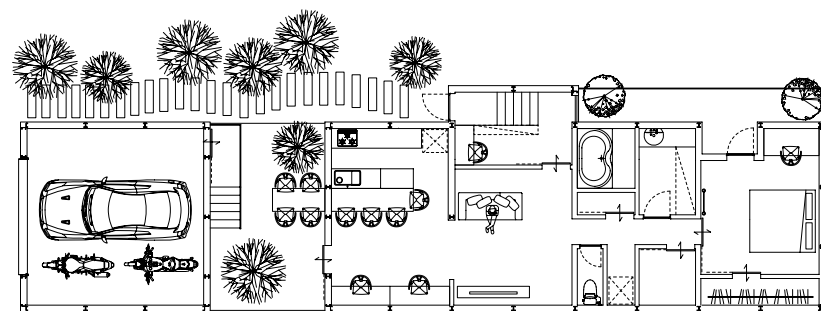
● INFORMATION
LDKinc.

代表：玉田 敦士
www.ldk.co.jp
03-6228-4933

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。



平面図の右側のゾーンは、基礎を約1m掘り込んだ竪穴式になっています。これによって、屋根の吹き抜け空間の一部フロートを設定しています。ソファに深く身体を沈めて1万年前の暮らしを想像する楽しさ。建築価格も四角い家に比べてリーズナブルなものも特徴となっています。



FLOOR PLAN

縄文遺跡の発掘と新発見がここ数年で進み、今までのイメージと違う、縄文的なるものが世界的に注目を集めています。縄文時代は約1万年も継続したと言われ、そんなに長期間継続した文化は、世界に類例を見ません。そもそも859万年前に遊動生活をしてきた日本列島の人が、約1万6000年前から定住を開始。一説には漁労の網が大型化し、それを運ぶ生活ができないうちから定住するようになったとも言われていますが、それが縄文時代のルーツです。一般的には大規模定住して、農耕を開始すると、富や権力の集中と偏在が生まれ、国家や戦争が起こるとされています。戦いが始まると、その文化は目まぐるしく変化します。ところがこの、縄文的なるもの、素晴らしさは、富の偏在や国家の発生を巧みに回避するルールやシステムを持っていた事にあります。更に縄文人は大自然との調和を基調にした宗教形態を保っていたそう、それも近代文明を新しい方向へ導いていくヒントになるのではないかと考えられています。

今回は、定住しながら好きなタイミングでクルマやバイクで遊動する生活を送る、現代の原始人の為の家を考案しました。この家では、LGSが相互にもたれあう形で骨格を構成しています。骨格を見せ、屋根(壁)の断熱性を高め、そして炉を家の中心に据える。これらの要素が竪穴式住居だとすれば、この家は文字通り現代原始人の住処です。自然と調和しながら、地震に強い。21世紀型の旧くて新しい家のカタチなのです。